

安全で快適な冬の過ごし方を知る! 除雪道具使い分け体験

学年・単元

4年:[社会科]第7単元「くらしを守る」→小単元3「雪とくらす」
3年:[社会科]「かわってきた人々のくらし」
5年:[家庭科]「寒い冬を快適に」

学習効果
UP
ポイント

- 昔の人の思いを考えながら取り組むと、知恵や工夫に目が向く!
- 今もジョンバが作られている事を伝えると、昔の道具のよさに気づける!
- 体験したことを生かして、自分たちにできることを考えるとよい



1 背景と取組のねらい

ひと冬で6mもの降雪のある札幌で、市民生活や交通機能を維持するためには、市によるかき分け除雪と市民による間口除雪の両方が適切に行われる必要がある。そのためには市民一人ひとりがこれを理解し、活動する環境をつくっていく必要があり、小さい頃からの意識付けが有効と考えられる。

ねらい

- ① 道具の工夫や改良によって、人々の暮らしがどのように変わってきたかを理解する
- ② 様々な除雪道具の使い方やコツを学ぶことにより、除雪に関する関心を高める
- ③ 除雪作業を実際に体験することにより、除雪をしてきている親や除雪作業員への感謝の気持ちを持つとともに、各家庭の間口除雪は自分たちで行うという意識づけにつなげる

2 実施内容

(1)準備するもの

- ・除雪道具セット×グループ数(1グループ10~15名)

<除雪道具セット>

竹製ジョンバ、プラスチック製ジョンバ、鉄スコップ、プッシャー、スノーダンブ
ユニバーサルスコップ、アシスト付スコップ等 各1~2体



竹製ジョンバ



一般的な道具



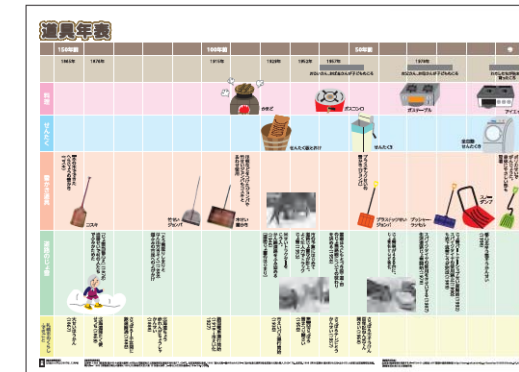
体にやさしい道具

(2)実施の流れ

事前

- ・除雪道具の変遷を説明
- ・各除雪道具の基本的な使い方や注意事項を説明
- ・10~15人程度を1グループとしてグループ分けをする

[所要時間]
10分程度



道具年表



雪かきのコツ
(ウインターライフ推進協議会)
<http://yukikaki.jp/b1.html>

実施

- ・除雪作業スペースに移動し、軽く準備運動してから開始する
- ※ある程度の積雪が必要となるので、事前に学校と相談し、実施場所を確保する
- ※除雪スペースが確保できない場合は屋内での実施も可

[所要時間]
20~30分
程度



目的

- 除雪に関心を持つことで、家の除雪を手伝うこと、将来、除雪ボランティア活動に参加すること、地域で除雪が困難な人を手伝えることにつなげる。
- 場所や目的に応じた除雪道具の使い方を学ぶ
- 楽しみながら除雪のコツや苦労を実感してもらう
- 除雪道具の歴史を通じて、除雪への関心を高める

ポイント

- 児童数が多くなると大量に道具の数が必要になる
- 児童がスコップ使用の際は、作業範囲に他の児童がいないか注意させること
- 漫然と道具に触れさせるだけでなく、除雪道具の特性に応じた除雪作業の場を設けるのが望ましい
- 試乗体験など、屋外で行う体験メニューの待機時間を有効利用するために簡易的に実施することも可能